

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年3月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1191800042
法人名	医療法人 眞幸会
事業所名	グループホームてしろ
所在地	〒340-0021 埼玉県草加市手代町1006-10 (電話) 048-927-9090

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年3月2日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,200 円	その他の経費(月額)	24,800円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	510 円	昼食	555 円
	夕食	555 円	おやつ	110 円
または1日あたり 1,730円				

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	11 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	60 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	草加松原整形外科医院、草加松原整形外科医院青柳分院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年、複合型地域密着型サービス事業所「てしろケアモール」としてスタートし、1階がデイサービスセンター、2階がグループホームとなっている。当ホームは、市街地の便利な場所に位置し、エレベーター等が設置され、浴室等最新の設備が整えられている。法人が計画する内部研修が毎月行われており、また、利用者がそれぞれゆったりとした暮らしを送れるよう個別の支援がなされている。一人ひとりのペースを大切にしながら、晩酌等、個々の嗜好や習慣が継続できるよう、利用者中心の暮らしを支える取り組みをしている。職員と利用者が共に笑顔の絶えない暮らしを目指しており、地域活動が盛んな町において、今後、地域の人々と連携しながら、高齢者支援による地域貢献への取り組みが期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議の開催に向けて準備をし、開催通知を出す運びである。重度化や終末期に向けては、管理者はその必要性を理解しており、家族との話し合い等も含めて、取り組みを始めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、職員は評価の意義を理解しており、管理者を中心に全職員で自己評価に取り組み、日頃のケアの振り返りの機会としている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 平成21年4月の下旬に、第1回目の運営推進会議を開催する予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 施設内に意見箱を設置し、また面会時等には、家族の不安や意見を出しやすい環境作り心がけている。家族からの提案については速やかに運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域の行事や活動に参加し交流を深めている。また、町会長の協力のもとに、ホーム近くの公園で行うイベントに参加したり、散歩時は近隣の人々との挨拶から始め、顔馴染みとなる関係づくりをしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	てしろケアモールは、複合型地域密着型サービス事業所としてスタートしており、「グループホームてしろ」としても理念を作り上げ、地域との連携について明示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内に理念を掲示しており、管理者と職員は、日々のケアにおいて理念の実践に向けた取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、夏祭り、いもほり、避難訓練等の活動に参加して、地域の人々との交流に努めている。散歩時には、近隣の人々と挨拶を交わし、顔馴染みの関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解した上で、全職員で自己評価に取り組み、日頃のケアを見直したり、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者の交代等で、運営推進会議の開催には至っていなかったが、平成21年4月の開催に向けて準備を進めている。運営推進委員を決定し、案内を送付する段階にある。		家族、地域住民等による関係者の参加のもとに、地域に開かれたホームの運営に向けて、運営推進会議の活用を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、日頃から市の担当者と密に連絡をとり連携を図っている。また、高齢者の一時避難者を受け入れる等の協力も行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りにより、ホームの行事や日々の生活状況、金銭管理について、写真を添えて報告するとともに、家族の面会時にも日常の様子を詳細に伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に、苦情窓口や苦情申し立ての機関について説明している。また、玄関には「意見箱」を設置し、家族から意見や苦情を出しやすい方法を考えている。家族からの提案については速やかに運営に反映させるよう心がけている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職は最小限にとどめている。また、ユニット間の交流がなされているため、職員・利用者が共に顔見知りの関係を築いており、馴染みの職員によるケアを受けることができるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体である法人の研修が毎月行われており、研修に参加しやすいように計画している。管理者は、外部研修についても案内を提示したり参加を勧める等、職員を育てる取り組みを進めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、県の研修会や市の東部地区の研修会、交流会に参加して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に当たっては、1階のデイサービスセンターを利用してもらったり、ホームを見学してもらうことによって、徐々に雰囲気に馴染み、納得してから入居に至るよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、調理や花の手入れ等、人生の先輩として生活の知恵を教えてもらっている。リビングへの作品の飾りつけ等、できることを一緒にいながら支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、生活歴や本人、家族の意向や希望を聞いている。入居後は、日常生活で知り得た情報を職員間で話し合ったり、面会時に意向を聞くなどして把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者がホームで平穏な暮らしを送れるように、本人や家族と話し合い、職員の意見も取り入れて利用者本位の介護計画を作成している。作成した介護計画に関しては、家族に送付し、サインや意見をもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月ごとにカンファレンスで介護計画の見直しをしている。利用者の状態が変化した時は、本人、家族と話し合って介護計画を見直し、修正している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院の付き添いや理美容院への送迎等を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望によりかかりつけ医を決めている。なお、透析を受けている利用者には、継続して治療が続けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してきた場合や終末期のケアについては、本人、家族と十分な話し合いがなされていない。		重度化してきた場合や終末期のケアについて、管理者、職員、看護師、医師等関係者でホームの方針を話し合い、共有しておくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーの保護に心がけながら対応している。顔写真等を公表する時には、本人、家族の同意を得ている。また、記録や個人情報の管理を徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物等、本人の希望を優先するよう努めている。また、食事においても個人のペースで食べられるよう時間に配慮しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	委託業者により食事を提供しており、魚や肉等利用者の好みに応じて食材を変えてもらっている。利用者は、昼食時の盛り付けや片付けを職員と共に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴する曜日と時間帯が決められているが、利用者の意向を汲みながら、ゆっくり入浴できる支援を考えている。また、浴室には暖房が設置されており、快適に入浴することができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や手芸、詩吟等、個々が得意とすることを楽しみながら過ごせるように支援している。計算をすることで脳トレーニングをする方、マージャンを楽しむ方等、多岐に渡る趣味の選択がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者一人ひとりの希望に応じて、散歩や買い物に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関には施錠していないが、2階にあるグループホームの各ユニットの出入り口には、危険防止のため鍵がかけられている。		鍵をかけることによる利用者への弊害を考え、安全を確保しながらも鍵をかけずに安心して暮らせる工夫の検討が期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力で消火、避難訓練を実施している。ホーム前の公園で実施される地域の防火訓練にも参加しているため、地域住民の協力が得られる環境にあり働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量をチェックし、栄養バランスを考えて対応しており、水分についても食後やおやつ時に好みのも のを取り入れて、必要量を確保できるように支援してい る。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	景観が良く、日当たりの良い居間はゆったりとして、居心地良く過ごせる環境になっている。居間には季節感のある利用者の作品等が飾られており、明るく温かい雰囲気である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、ベッドを使用するなど利用者の生活スタイルに合わせて過ごすことができる。家で使用していた馴染みの家具や家族写真、仏壇などが置かれており、一人ひとりが居心地良く過ごせるように工夫されている。		